

平成30年度 第5回

福山大学 教養講座

「森里海連環学が拓く、海から森を想い
森から海を想う世界」

1月22日(火) 10:30~11:50

《 大学会館ホール 》

京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長

講師 田 中 克 先生

全ての命にとって必須の物質である水は海と陸を巡り、陸域生態系を代表する森を育む。森で涵養された水は、田畑を潤して農作物を生み出し、海に流れて生き物たちを育む。地球環境問題の本質は、森と海を巡る水の循環が森と海の間の「里」(都市を含む人間の生活空間)の人々の価値観(環境意識)によって大きく損なわれ、両者のつながりを分断し続けてきたことにある。この間、草の根的社会運動「森は海の恋人」(1989年)への世界の関心が高まり、2003年には森から海までの多様なつながりを解明する「森里海連環学」が誕生し、2014年には環境省が「つなげよう、ささえよう森里川海プロジェクト」を国民運動的に展開し始めた。今や、物質文明から「生命文明」へのパラダイムシフトの波が起ころうとしている。「森から海を想い、海から森を想う」今日的意味を考える。



【一般の方へ】 聴講を希望される方は公共交通機関をご利用のうえ直接会場にお越しください。